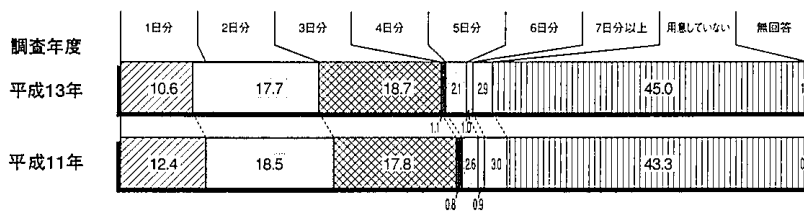
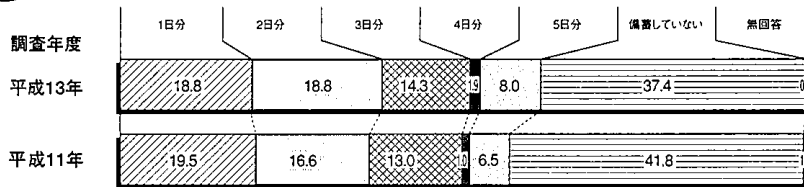


**行政も、食料や飲料水をすぐには
供給できません。
ある程度は家庭で備えてください。**

**Q 非常持出用として何日分の食料を
備蓄していますか**



Q 何日分の飲料水を備蓄していますか



非常持出用食料を3日以上備えている家庭は25%、
飲料水を3日以上備えている家庭は、24%でした。
いざという時に備え、各家庭で食料や飲料水を必ず準備してください。

食糧の備蓄

非常食で最低
3日分
備えて
おきたいのは
7日分




- 普段から非常食3日分を含む7日分程度の食料を準備しておく。
- 食料の点検、入れ替えを忘れずに。

東海地震が発生した場合、食料等の供給活動を開始するまで7日間ほど時間が必要となります。

飲料水を備蓄

1人1日3ℓで
3日分
9ℓ



- 1人1日3ℓの水を最低3日分用意する。
- 市販のペットボトル入りの飲料水でもよい。定期的に使用し、順次買い替えていく。

東海地震が発生した場合、飲料水等の供給活動を開始するまでに、3日間ほど時間が必要となります。

日持ちのよい食品を備蓄し、定期的に交換しましょう。

主食 米、カンパン、インスタント食品など

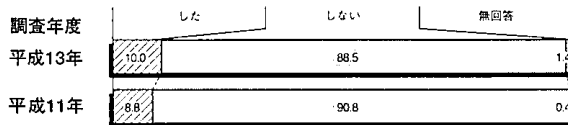
副食 漬け物、梅干し、佃煮、缶詰など

調味料 味噌、しょう油など

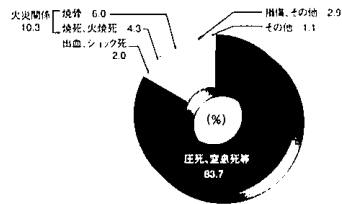
- いつも風呂に水をはってふたをしておきましょう。
- 水洗トイレのタンク内の水も活用しましょう。

阪神・淡路大震災の死者の約8割は家屋の倒壊による圧死でした。自宅の耐震診断を行い、安全性を確認してください。

Q 木造住宅居住者の耐震診断の実施状況



阪神・淡路大震災の死因別の状況



耐震診断を実施したお宅は、全体の1割でした。
 在来工法による木造一戸建住宅なら、ご家庭で簡単に耐震性を確認できる「わが家の耐震診断調査票」があります。
 詳しいことは市町村の防災(建築)担当課、県の土木事務所、県建築安全推進室、または県防災情報室にお問い合わせください。

「わが家の耐震診断」実施方法

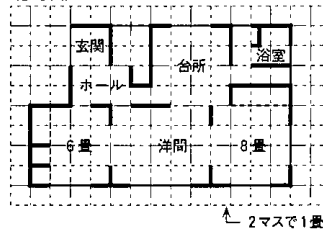
耐震診断は、家の図面とA~Eに示した各項目の診断結果(評点)をもとに行います。

- 2階建ての場合にも、診断は1階部分だけで行います。
 - 同じ項目内に該当する答えが2つ以上ある場合は、小さい方の評点を選んでください。
- まず1階部分の平面図を書きましょう。

平面図の書き方は？

- 参考図のように、家の間取りが分かる程度で十分です。
- 戸やふすまをかく必要はありません。
- 窓などの開口部がない壁は太線で書いてください。

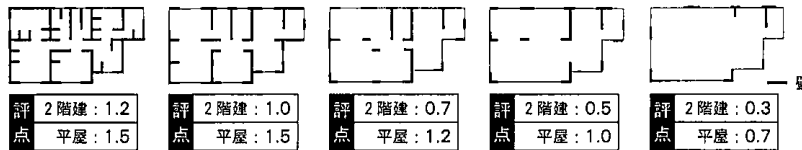
〈参考図〉



A 壁の割合を調べましょう。

- あなたの家の平面図と、下の5つの図を比べてください。あなたの家の「壁の量」はどの図の「壁の量」に近いですか。最も近い図を選んでください。

右上の参考図の評点は2階建てなら1.0です。



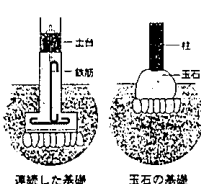
B 地盤と家の基礎を調べましょう。

- 地盤は、次の基準で判断してください。

- 良い** 岩盤、丘陵地、台地など
- 悪い** 田んぼや沼の埋立地、大型車が通ると家が振動する場合など
- 普通** その他の場合

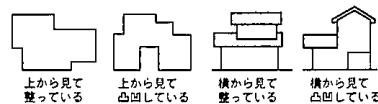
基礎	地盤	良い	普通	悪い
鉄筋コンクリート造の連続した基礎	1.0	0.8	0.7	
鉄筋がないコンクリート造の連続した基礎	1.0	0.7	0.5	
びりびりのあるコンクリート造の連続した基礎	0.7	0.5	0.4	
その他の基礎(基石、ブロックなど)	0.6	0.4	0.3	

基礎の形は、下の図を参考にしてください。



C 建物の形を調べましょう。

- あなたの家と次の4つの図を比べて、建物の形はどれに近いかに判断してください。

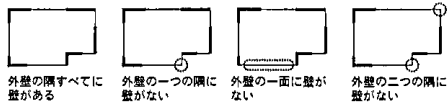


1階部分に壁のない駐車場やピロティがあれば0.8です。

診断項目	評点
上から見て凸凹している	1.0
上から見て壁が揃っている	0.9
1階に壁のない空間がある	0.8

④ 壁の配置と、⑤ すじかいがあるかどうかを調べましょう。 **⑥ 建物の老朽度を調べましょう。**

●外壁の隅の部分に、壁があるかどうか調べましょう。
次の4つの図を参考にして、評点を求めてください。



●次に、建物のどこかにすじかいがあるかどうか、調べましょう。
一か所でもすじかいが入っていれば「あり」(評点1.5)としてください。
また、入っていないかわからない場合は「なし」(評点1.0)としてください。

■壁の配置

診断項目	評点
外壁の隅のすべてに壁がある	1.0
外壁の隅の一つに壁がない	0.9
外壁の一面に壁がない・外壁の二つの隅に壁がない	0.7

■すじかい

診断項目	評点
すじかい「あり」	1.5
すじかい「なし」	1.0

●あなたの家の老朽度(いたみ具合)を判断して、評点を求めましょう。
●特に、建物の北側部分や、風呂場周りなどを点検してみましょう。

■建物の老朽度

診断項目	評点
健全(新築時の良い状態が続いている)	1.0
柱が傾いたり、戸やふすまのたてつけが悪い	0.9
腐ったり、シロアリに食われている	0.8

判定表

④～⑥の評点をすべて掛け算して「総合評点」を求め、右の判定表であなたの家の耐震性を確認してください。

総合評点	判定	今後の対応
1.5以上	安全です。	家庭でできる防災対策を進めてください。
1.5未満0.7以上	専門家の診断を要します。	専門家による診断を受け、耐震性を確認してください。
0.7未満	大破または、大破壊の危険があります。	専門家による診断を受け、補強方法について相談してください。

1階の平面図

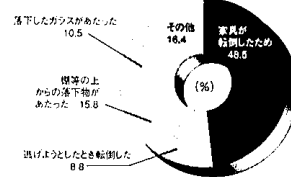
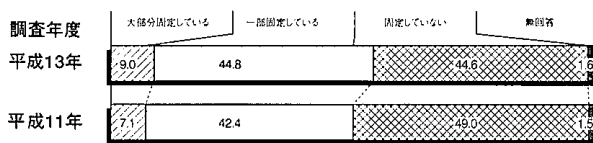
総合評点 $\text{A} \times \text{B} \times \text{C} \times \text{D} \times \text{E} \times \text{F} =$ 総合評点

地震発生時に転倒・落下する家具は 非常に危険な凶器となります。 自宅の家具類の固定は急務です。



地震に備えて家具類の固定をしていますか

阪神・淡路大震災のケガをした人の原因



阪神・淡路大震災では、家具の転倒による被害が報告されています。特に、就寝中などに地震が発生した場合、家具類が転倒しては逃げる暇がありません。まず自宅内の対策を行い、被害を最小限に止めましょう。

●平成7年2月
神戸市消防局調査

家具類の固定は、家庭の対策でもっとも基本的なものです。
みなさんのちょっとした工夫や日曜大工でも、十分な安全対策ができます。

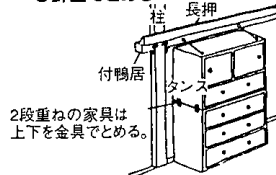
住み方の工夫

1. 寝室、居間あるいは乳幼児のいるところには、家具は置かない。
2. 家具は、ガラス窓や障子を背にして置かないで、柱や壁を背にして倒れないように柱にとめる。
3. タンスの上には、重いもの、割れやすいものは置かない。
4. 食器棚は、中のものがすべり出さないよう、柔らかい敷物を敷いておく。
5. バルコニーや階段のおどり場の手すりの上には、植木鉢等を置かない。
6. バルコニーに置いた洗濯機等が倒れて窓ガラスが割れるようなことのないよう注意する。

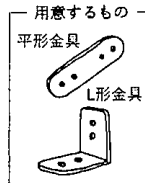
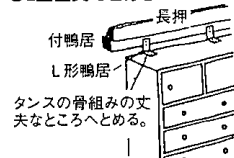
家具類の固定方法(例)

背の高い家具は、鴨居に針金やL型金具でとめる

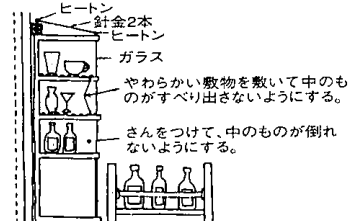
●針金でとめる



●L型金具でとめる



●食器戸棚のとめかた



●つり下げ型照明器具のとめかた

器具の4すみをひもまたはチェーンでとめて器具が天井にふれないようにする。

